CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

CASBEE-広島 2014年版

ノートルダム清心中・高等学校 講堂等建設工事

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配　慮　項　目	評価点	重み係数	内　訳								
■1.「地球温暖化対策」の推進											
1.1　建物の熱負荷抑制											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください 屋根および壁面の断熱により熱負荷を抑制	2.0	0.00	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能	
	0.0	0.00									
	4.5	1.00	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制					
小計	4.5	0.03									
1.2　自然エネルギーの利用											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください 教室の自然採光を確保しているが、1面からの採光のみである	2.5	1.00	LR1	エネルギー	2	自然ｴﾈﾙｷﾞｰ利用					
小計	2.5	0.06									
1.3　設備システムの高効率化											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ LED照明、全熱交換器の採用	4.4	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化					
小計	4.4	0.29									
1.4　設備システムの効率的運用											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください 運用管理体制を整備	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.1	モニタリング			
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	効率的運用	4.2	運用管理体制			
小計	3.0	0.12									
1.5　資源・マテリアル対策											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 衛生配管は耐久性に配慮した管材を選定	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水			
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無	
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利システム導入の有無	
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減			
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用			
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材			
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			
小計	3.2	0.35									
1.6　ライフサイクルCO2排出率											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください 建物の長寿命化によりCO2の排出を抑制	3.3	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮					
小計	3.3	0.15									
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	**3.5**	**0.71**									
■2.「ヒートアイランド対策」の推進											
2.1　温熱環境の向上											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。 既設緑地を保全するとともに、建物周囲を緑化	4.0	0.49	Q3	室外環境（敷地内）	1	生物環境の保全と創出					
	4.0	0.24	Q3	室外環境（敷地内）	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上			
	3.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善			
小計	3.7	0.96									
2.2　交通負荷抑制											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内通路を長くとり、駐車場までの滞留場所を敷地内で確保	4.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制	
小計	4.0	0.04									
2.「ﾋｰﾄｱｲﾗﾝﾄﾞ対策」の推進の評価	**3.7**	**0.20**									
■3.「長寿命化対策」の推進											
3.1　耐用性の向上											
(コメント)　※配慮事項を簡潔に記載してください。 耐久性に実績のある材料を使用することを基本とした。また、更新性やメンテナンス性に優れた建築計画とした。	3.0	0.18	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	1	耐震性	
	3.0	0.27	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震	2	免震・制振性能	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	3.0	0.05	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	
	5.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔	
小計	3.2	0.58									
3.2　設備の更新性											
(コメント)　※設計の計画上特段に配慮した事項を記載してください。 PSやEPSおよび設備ピットを設け、設備の更新性に配慮した。	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性	
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性	
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性	
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性	
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性	
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保	
小計	3.0	0.42									
3.「長寿命化対策」の推進の平均点（上記2項目）	**3.1**	**0.09**									
■重点項目の総平均（上記3項目）	**3.5**										